

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生涯発達心理学 Life-Span Developmental Psychology		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成選択必修)	こどもフィールド対象だが、進学等の希望者は応相談
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
発達心理学 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
発達心理学 II				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
生涯発達するということは、生涯、学習を続ける、変化を続けるということである。本講義では、心理学の知見を用いて、受講者諸君が生涯に亘りその意識を持ち続けるための提言をしていく。				
授業の目標				
心理学的知見を参考にして、 ①自分のライフコースをイメージし、自分が望む人生を築き上げるためには、どんな活動や資源が必要であるかを挙げられるようになる。 ②将来的に生涯学習支援に携わる者として、その概念・理念を学び、実際的な支援手段を想定できるようになる。 ③個人的次元だけでなく、公共的・社会的次元で、生涯学習支援を立案できるようになる。 ④実践的な支援手法を体得する。				
授業の方法				
主に講義形式で行うが、しばしばアクティヴ・ラーニングを主眼としたワークやディスカッションも挿入される。期末考査はレポート提出とペーパーテストで行う。				
学習の成果（学習成果）				
(1) 自己の生涯発達・生涯学習の在り方を想像し、建設的計画を立て（あるいは修正し）、それを言語化できる。 (2) 他者の生涯学習支援に関する知識と心構えを作り、それを言語化できる。 (3) 自己および他者の思考を整理する技法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 生涯発達、生涯学習とは何か			
第2回目	生涯学習の内容と方法 学校教育と生涯学習 キャリア教育の目指すもの			
第3回目	標準的人生とは存在するのか ジェンダー・アイデンティティとキャリア発達 ワークライフバランスを考える			
第4回目	生涯学習の支援と課題 学習社会の共同性 まちづくりとひとづくり			
第5回目	心理学を生涯学習支援に活用する：交流分析（1）理論編			
第6回目	心理学を生涯学習支援に活用する：交流分析（2）実践編 [小レポート①]			

第7回目	心理学を生涯学習支援に活用する：アドラー心理学（1）認知の理解と変容 共同体感覚
第8回目	心理学を生涯学習支援に活用する：アドラー心理学（2）目的論と勇気づけ ライフスタイル分析
第9回目	心理学を生涯学習支援に活用する：アドラー心理学（3）実践編 [小レポート②]
第10回目	心理学を生涯学習支援に活用する：コーチングとファシリテーション（1） 理論編
第11回目	心理学を生涯学習支援に活用する：コーチングとファシリテーション（2） 実践編 [小レポート③]
第12回目	偉人の人生から学ぶ 親しい人の人生から学ぶ 伝記的研究法・縦断的研究法の活かし方
第13回目	多文化共生社会における支援：多文化家庭の増加 多文化保育・教育の歴史
第14回目	多文化共生社会における支援：多文化保育の理解と実践
第15回目	まとめ：自分の人生をどう構築するか、他者の人生をどう支えるか 転機の意味 [総合レポート提出]
事前・事後学習	授業体験のレポート執筆をすること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	他者の話に真剣に耳を傾け、また、積極的にディスカッション・グループワークに参加し、講義や発表への疑問については臆さず質問すること。
レポート	60%	生涯学習に関し、個人として、保育者として、どのように実現を図るか、将来を見据えてレポートすること（総合：30%）。この他に、ディスカッションやワークに関する小レポート課題を課す（30%）。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	多問型と論述型を組み合わせた期末試験を実施する（ノート持ち込み可）。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：特に購入指定しないが、他教科で既に購入している教科書の持参を求める場合がある。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。

履修上の留意点・ルール

私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。小レポート課題は原則として翌週提出すること。